

第4回 TDA通常総会

'98 パネルディスカッション テーマ：「テキスタイルデザインの展望」



●パネラー

野末 和志
(有)企画屋えぬ 代表取締役
山内 誠
東レ(株) 繊維マーケティング部
馬場 俊春
大阪染工(株) 企画室長
山口 英夫
(有)織元山口 テキスタイルデザイナー
鶴岡 孝子
テキスタイルアーティスト

●コーディネーター

寺井 洋介
ユニチカ(株) テキスタイルデザイン室

各パネラーの仕事内容。21世紀に向けて、どのようなスタンスで仕事に取り組んでいるか。又作品をビジネスに結び付けて行うためにはどうすれば良いか。そしてテキスタイルデザインは、今後どのように変わってゆけばよいか等について提案された。

〈山口〉 山形の米沢の織物製造3代目を継いでいる。コンピュータを使ったジャガード織物、先染の糸の組みあわせでファブリックをつくっている。古い写真等をモチーフにし、記憶の中のものをテーマに作品にしている。

◇「うるる、うれない」の基準でモノをつくり過ぎていないか。／造っているモノが、本当に人に望まれているものか。／地球環境の問題を考えると、売れる事が善で、売れない事が悪、だという考えで良いのか。／デザインが本当に必要とされているのか。／デザイナーが変わらなければいけない時代になったのでは。

〈鶴岡〉 小さい時からピアノが好きだった。「大草原の小さな家」に触れ、自然と心しんじに立ち向かう姿に感動した。



自然現象をテーマに雲の動き、水の流れ、ダイヤモンドダスト等を染織を通して表現したい。

◇「服」は服のデザイナーの名前が表に出るのに、テキスタイルデザイナーの名前が出ないのはどうしてだろうか。／業界が大変複雑に細分化されている。／分業化が進んだ弊害として、コミュニケーションがとりにくい。

〈馬場〉 大阪と京都の中間、山崎にある染工場。インテリア・覆装インテリアのプリント工場のデザイナー。

◇ホテル新築の場合、オーナーのイメージがメーカーの創造性というフィルターを通過して工場にやってくる。

〈山内〉 東レ(株) 繊維マーケティング室

◇量の倫理、求められるものと良いものとのちがひ。／ここ200年間異常な状態がつづいている。／テキスタイルはかつて、民族の生活の中にあつた。それが産業として民族から絶ち切れられデジタルとしてのみ生きている。／デザイナーがイメージして送り出したものを受け手はそのまま使っていない。／見方を変えると状況が変わる。環境問題を考えると木綿栽培はいいか悪いのか。

〈野末〉 テキスタイルの幅広い分野で活躍中

◇デザイナーは企業を相手にする町医者である。／デザインは技術としてのオリジナルを提供する。／技術としてのデザイン、技術としてのオリジナル。／服地・ホームテキスタイルの本質はテキスタイルになく、企画技術にある。／テキスタイルの本質は「なぜ」の中にあり、これは技術である。／オリジナリティーとは、皆が好きで一味ちがうもの。／オリジナリティーとは、まったく変わったものであるだろうか。／ビジネスコンセプトのもとにデザインする。／デザインを投資と感じさせる。

野末、山内、馬場氏は、企業にかかわっているデザイナーとしての立場と価値観からの意見であり「なるほど」と感じさせる説得力があつた。又一方、山口、鶴岡氏は、クリエイターとして、いつも「新しさ」を求めて行こうとする研ぎ覚まされた感性と、物作りに取り組む姿勢が感じられ、それがとても新鮮に感じられた。

(リポート 松本 美保子)